無限遠方で緩やかに減衰する斥力ポテンシャルを伴うシュレディンガー方程式の初期値問題に対して時間大域的なストリッカーツ評価が成立することを紹介する．例えば，正のクーロンポテンシャルが典型例である. ポテンシャルの減衰が遅い場合，従来の滑らかな摂動論を用いる方法は適用できない．その代わりに変数係数の場合に培われた手法を適用する．特に，ポテンシャルの減衰度に応じたスケール変換を導入することによって, Bouclet-Tzvetkov (2008) による高エネルギー領域での磯崎-北田型近似解の構成とその時間減衰評価を低エネルギー領域に拡張することが重要となる.